

小平西のきずな

「小平西地区地域ネットワーク」ニュース No. 33

2020年3月9日（土）発行

発行責任者：草野篤子（白梅学園大学）

TEL: 042-346-5639

住所：〒187-8570

東京都小平市小川町1-830

白梅変わったもの(こと)・変わらないもの(こと)

白梅学園生活協同組合 理事 高祖 亜希子

30年ほど前に白梅学園で学び、その後生協に就職し、16年後に白梅学園生協職員として4年間勤務し、その10年の昨年5月から白梅学園生協理事としてお世話になることになりました。白梅学園とは強いご縁があると感じています。3度目にお世話になることになり学園を訪れるとA棟前にある梅の木が元気に迎えてくださり思わず「ひさしぶり♪」と声をかけました。その後ご挨拶に伺う先々の事務所では「ひさしぶり♪」とお声掛けいただき、故郷に帰ってきた気持ちになりました。この3度のご縁の中で、私がなりに感じた「白梅変わったもの(こと)・変わらないもの(こと)」について記載したいと思います。



<変わったもの(こと)>

①短大にⅡ部があった。今は大学・大学院・中学校もある。学部も様々変わっていますね。私の

学部心理技術科も今は発達臨床学科になってしまい、嬉しいような寂しいような。

②「ゴンタくん」を知らない。

ゴンタくんものつばさんも学生さんがご存知なかった。学生の頃は白梅の代名詞に使っていました。…ショック。

③生協はプレハブ店舗だった。今は自動ドアもあるコンクリートの立派な店舗。プレハブでは冬はストーブを炊い

ていました。いま考えると火事にならなくてよかった…。

<変わらないもの(こと)>

①学園内に「愛」がたくさん！

生協店舗がいつも和気あいあいとした雰囲気。これまで複数の大学生協で仕事をしてきましたが、こんなに教職員・生徒・学生・生協役員との距離が近く愛を感じられる生協はありません。建学の理念「ヒューマンイズムの精神」が生徒・学生のみならず、学園の組織風土として根付いているのだなあとあらためて。

②元気なあいさつ

来校すると、必ず「こんにちは」と声をかけてくださる学生・生徒のみなさん。生協職員として着任した時は普通に思っていたのですが、外では普通にはこんなに挨拶されません。白梅の大きな強み。

③中庭の芝生

思い出の場所。たまたま来校する時間がそうなのか、中庭で遊んでいる学生は以前より少ないような…

時代と共に変わることを楽しみつつ、変わらないものも大切にしたいなと感じています。

小平西地区ネットワークって何？

2012年3月17日に白梅学園大学関係者が様々なNPO、ボランティア団体、民生・児童委員、町内会、大学・学校などに関係する方々に呼びかけて「お互いの顔が見える人間関係が豊かな地域づくり」を目指して立ち上げました。個人ベース（団体の担当者でも可）の加入を基本とする開かれたネットワークです。市民の皆さん一緒に活動に参加なさいませんか？

3月地域懇談会の中止と映画会の延期について

コロナウィルスの拡散を防ぐために、日本全体が様々な行事を自粛する中で、3月7日に予定されていました小平西地区地域ネットワーク地域懇談会は中止となり、予定されていた『ピアーマちをつなぐもの』の上映会は6月9日(火)の懇談会に延期されました。期待をされていた皆さん、準備をされていた皆さん、大変申し訳ありません。

『ピアーマちをつなぐもの』は在宅医療に懸命に取り組む、若き医師と仲間たちの命と希望の物語です。高齢化社会の中で、「一番好きな場所で、最後まで自分らしく、穏やかに幸せに生きてもらうための医療をやるんだ」

という決意で地域に生きる人々です。とても素敵な映画です。

今回の新型コロナウイルス問題では、首相の学校の臨時休校の依頼など、日本全体が大きな影響を受けました。白梅学園でも様々な会議の中止をはじめとして卒業式の縮小、学生達のサークル合宿の取りやめ等も出ています。今後の推移では入学式も実施について検討が必要になってきます。

こんな時期だからこそ地域の繋がりを大切に行きたいと思います。

「カフェ なかじま」がオープン 「西の風」(第2ブロック) 芳井正彦

2012年4月、「お互いの顔が見える人間関係が豊かな地域づくり」を目指して小平西地区地域ネットワークが立ち上がりました。その後1年を待たずして、西ネットの目標の一つでもある「コミュニティサロンほっとスペースさつき」が開所し、続いて「きよか」も開所しました。「西の風」も遅れじと場所探しに奔走して2軒の候補を見つけるが話は不調に終わり、初動捜査で行き詰まった感じです。

団塊の世代が全員75歳の後期高齢者に達する2025年を目途に地域包括ケアシステムを構築しているが、人生100年時代と更に高齢化が進むため、生活支援コーディネーターとよばれるSC、包括第二層、協議体組織が新設される。

全国各地の都市・まち・むらで「子どもから高齢者まで助け合いのある地域づくり」を支援している公益財団法人さわやか福祉財団の協力を得て、「小平市西圏域地域支え合い交流会」を多数の地域住民の参加を見て3回連続行いました。

グループワークでは、今まで地域を見る視点が浅い見方だったことに気づかされ、もっと地域をよく知ろう、困り事は何か、欲しいものは何か、足りない助け合い活動は、出来ると考えた助け合い活動は等々地域に必要な助け合い活動をSC・協議体と共に考え、地域の支え合い推進のため、地域の拠点づくりを始める。

どんな集いの場所が欲しいのかについては、いつ来

てもいい、いつ帰ってもいい、誰が来てもいい、自由な集いの場が欲しいと具体的な形が現れ始める。次回からの小平市西圏域第2層協議会を愛称の「ゆー&あいうえすと」称する。

2月スタートした地域交流会は居場所づくりのゴール目指して動き出す。

①6月、居場所は中島地域センターと決定しており周辺地域に、居場所開設とスタッフへの呼び掛けチラシの配布。

②一ヵ月後、住民勉強会「カフェをつくろう」協議会委員11名、地域住民17名。人数の多さに驚く

③更に一ヵ月後、2回目の勉強会 7 11

④立ち上げメンバー 4 11

⑤カフェ花みなみのメンバーが激励とアドバイスをしてくれるために訪問してくれる。感謝

小平市東端と西端の居場所が共に公共施設利用で今後のモデルにこと意気投合。

⑥本格的にオープン・継続的に開所する為「さつき」や「きよか」その他の居場所の見学をして情報交換する。

⑦準備会

店の名前、飲み物、参加料、備品、コーヒーメーカー、カップ、湯飲み茶わん、紙コップ

スプーン等々漏れの無いようチェック。案ながら会則も。

⑧2月5日午後オープンを前に来所者が詰めかけスタッフ共々ははじけるような笑顔で「カフェ なかじま」の誕生を

喜んだ。歌手の三ツ矢竹輝氏のショータイムもおおいに盛り上げて呉れた。

終わってみれば何と参加者は37名の大成功。次回

以降も地域の皆さんに喜んで頂けるような居場所づくりに励んでいきたい。

ほっとスペースきよか

「エンディングノートとは？」の勉強会を実施しました

石川隆(きよか運営委員)

毎週月曜日のほっとスペース「きよか」では、ワイワイ楽しくおしゃべりをしています。話題のなかにいつも「終活問題を考えなくてはと思っている」とか「一人暮らしなので身のまわりの整理を始めている」という話が出てきます。そこで「エンディングノートについて」気楽に勉強をしてみようということで折り紙、ハーモニカで歌う、絵手紙など行っているイベントの一つとして、11月 11 日・東京司法書士会三多摩支部に講師をお願いして勉強会を行いました。

勉強会では、最近エンディングノートが必要になってきた背景について、少子高齢化と核家族化がすすみ地域ではお年寄りの一人暮らしも急速に増えつつあるという状況の中で、このエンディングノートではイ、自分の事・ロ、家族・親族の事・ハ、認知症や病気になった時の事・ニ、資産管理・ホ、争議、お墓の事など「自分の生

きてきた証を形に残すこと」「自分の意思を形に残す」ことが本当に必要になってきていると具体的な事例も含めての話がありました。それでは、「どうやって書くのか？何を書いたらいいのか？」では用意していただいたオリジナルの「エンディングノート項目集」の該当項目に書き込んでいきながら少しずつでも作り上げていくことや、個人情報のかたまりでもあるノートなので保管場所や保管場所を伝えておく身近な人はだれにするのかなども大変参考になりました。

参加者からは、「書こうと思っても、なかなか足を踏み出せなかったが書いてみよう」「元気なうちに、自分の人生の整理をしておこうか」等の意見や質問も多数出され予定時間をオーバーして脳の活性化の時間をすごしました。

分かった会の子どもたち

白梅学園大学 4年 芦沢知香 石井奈津子

私は大学2年生の冬頃から大学の先生の勧めから講師として活動させて頂きました。講師といっても、子どもたちに勉強を教えるだけではなくまずは子どもとの距離を縮めることから始めました。勉強中、親しくない大人に急に説明されると子どもたちも戸惑ってしまうと考えたからです。また、子どもに問題の正解を教える必要はありません。わからないところをフォローすることが分かった会の本質だと考えます。最初は近くに行くだけで戸惑っていた子どもも、勉強以外にその子自身の話を聞くことで勉強をスムーズに進めることもありました。私は、大学卒業と共に分かった会を卒業します。子どもたちに会えなくなることは寂しく感じているのですが、以前に比べ、講師

に自ら質問し、勉強に対して意欲的になった子どもたちの姿を見て嬉しく思っています。(芦沢)

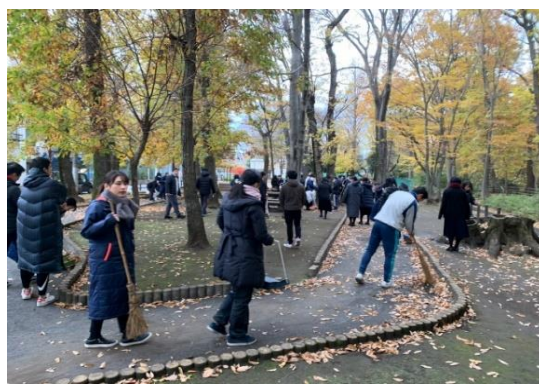
分かった会では、教室が2つあり、私たちが最初に講師として子どもたちと関わっていた教室は、小学校6年生と中学校1年生がいる教室でした。最初に教室に入った印象は、「とても賑やか」でした。先生からは、勉強しに来ている、と聞いていましたが、子どもたちは学年、学校を超え、友達に会うのが楽しみで来ているようでした。そして、私たちや先生たちが教室へ入ると、「やべっ」といって問題集に取り組み、終わりの時間になると大きな声で「一緒に帰ろー」と言い笑顔で友達たちと帰るのです。分かった会は、勉強をすることが目的であるのか

もしれませんが、子どもたちにとってはそれだけではないことを感じました。親や学校の先生以外の大人と触れ合える場所であり、友達に会える場所であり、週に一回

の自分の居場所である。子どもたちが、家庭や学校以外に居場所があると感じられる、分かった会はその場所です。(石井)

玉川上水遊歩道でクリーン作戦

朝鮮大学校の学生たち



昨年12月6日と7日、朝鮮大学校の学生たちが上水公園と遊歩道のクリーン作戦を行いました。きっかけはある学生が落ち葉で遊歩道が歩きづらいと感じたこと。周囲の学生に話すと、近隣の人たちも不便に思っているかもしれない。

みんなで掃除しようと盛り上がり周囲の学生たちに呼びかけたそうです。当日は早朝にもかかわらず約70名の「即席ボランティア」が集合。上水公園と遊歩道の落ち葉をひろい集めました。

大学の街・小平の西ネット、No.2 朝鮮大学校の巻 金田利子

先回は武蔵野美術大学についてミノヒト文字で表しました。今回は私が非常勤講師をしている朝鮮大学校を、保育科が中心ですが、ご紹介してみたく、また、ミノヒト文字にしてみました。年に一度1月か2月に実技発表会が

あります。地域の方の来訪はとて歓迎されます。今年は終わりましたが次の開催時はこの「絆」でお知らせしますのでぜひ足を踏み入れてみていただければと願っています。

<学生の様子>

- ◆朝大の学生たちのおおらかさ 輝く瞳に元気頂く
 - ◆全面的信頼寄せて「先生！」と 街でも駅でも いとさわやかに
 - ◆発表会技も心も磨かれて 個と集団の結晶みごと
- <それはなぜ？>
- ◆民族の未来を繋ぐ若者の 拠点となりし朝大ありて

◆朝大の教育実り若きらが 未来を拓く旗手にならんと <街づくりへの期待>

- ◆在日の大学はただ一校、その在る場所がわが西ネット
- ◆この利点生かして交流豊かにし 排他思想の排除ここから

白梅学園大学・短期大学学生会の様子

鈴木翔太(白梅学園大学子ども学科)

私達、白梅学園大学・短期大学学生会執行部一同は、学校と学生の橋渡しをするべく、日々活動をしています。現在の学生会役員は、4年生5人、3年生2人、2年生1人、1年生12人の計20人で構成されております。私達は、1年間を通して様々な活動を行っております。そのため、週に1度行われる定例会にて、活動の内容や方針などを決めています。

具体的な活動内容としましては、入学式、卒業の送辞・祝辞や記念品の準備、新入生にどのようなサークルがあるのかを知ってもらうために開くサークル紹介の企画・運営、新入生同士の交流を深めるために開く新入生歓迎会の企画・運営、大学内のサークルの活動費の管理・配分、新しい学生会執行部員の立候補、承認を行い、新体制へ移

行する学生総会の運営、学生の意見を学校へ伝えるために、大学1,2,3年生と短期大学1年生を対象に2度のアンケートを行い、意見をまとめ学校へ提出し、学校からの回答及び対応を学生会掲示板に掲示する学生アンケートなどが挙げられます。

さらに、2020年度からは学生の声をより高い頻度で聞くために意見箱の設置を目指しています。また、このような活動を行うためには、学生会執行部内の連携が必要であり、そのために、定例会だけでなく、休日や夏休み期間を利用して執行部メンバーで合宿などの交流の機会も設けております。

今後も学生会執行部として、学生たちがより良い大学生活を過ごせるよう、日々努力していきたいと考えております。

小平消防署災害ボランティアに参加して

家族・地域支援学科3年 落合紗也佳 薬袋若菜

場所:小平消防署

実施日時:2020/01/19(日)

9:00~12:00

実施内容:1,ホースの取り扱い 2,ホースカー運転 3,仮設トイレの設置 4,消火活動 5,階段昇降機の実施 6,炊き出し訓練(豚汁うどん)



- 1,ホースの取り扱い(結合・巻き方)
- ・ホースの結合



第1ホースのオス金具がやや上を向くように右足先で押さえ、第2ホースのメス金具を両手に持って、第1ホースのオス金具に合わせて差し込んで結合した後、ハカマ部分を両手で引いて結合(ツメが掛かっていること)を確認した。

・ホースの離脱

左足先でオス金具がやや上を向くように押さえ、両手でオス金具の離脱環を手前に引きながら、メス金具を離脱している様子を見せてもらった。

・巻き方

2人組みになって、メス金具を下側に、オス金具を上側に短く(約60~70cm)重ねて二つ折りにした。巻く人は、二つ折りにした部分を中心にして重ねて巻いていく。補助する方は、上下のホースの重なりがずれないように左手を添え、右手でたるみを取りながら後退した。

2,ホースカー運転(実際に運転してみました♪)

3,仮設トイレの設置

・災害時のトイレの組み立てと分解をしました。中から鍵も閉められプライバシーにも配慮されていて、消臭剤で臭いにも気がつかない少人数でも組み立てられるトイレでした。

4,消火活動



・消火器をつかって消火活動をしました。・コツは、火元に当てる事だと聞きました。

(※消火できないと思ったら頑張らず、無理はせずに逃げてください。)

5,階段昇降機の実施

・階段の上から昇降機を用いて、人の搬送を人形を使

って体験しました。

・コツは、力は下に向かってかけるとスムーズにできます。



6,炊き出し訓練(豚汁うどん)

・消防署の方が、おいしい豚汁うどんを作ってくださいました。おかわりもたくさんあって、とっても美味しかったです。



・豚汁うどんを、消防隊の方と一緒にテーブルで食べ交流ができました。私たちと、同い年の方や年下の隊員もいて、とても話やすく会話がはずみました。



去年に引き続きボランティアに参加し、また違った訓練も経験することができました。一度試してなんとなくコツが掴めた、というものもあったが、それは訓練であり、ある程度自分のペースであるからであって、実際の災害時には丁寧さや速やかにこなすことが大切になると感じました。だからこそ訓練を何回も積み重ねていくことが必要であるし、災害への意識を高く持つためにも、この災害支援ボランティアは大きく意味のあるものだと感じています。高齢分野や障害分野においても、利用者の命を預かるという点において、訓練で身についた知識や感覚は役に立つと考えています。

地域の居場所

「ほっとスペースさつき」が移転となる

渡辺穂積(さつき代表)



表記の通りコミュニティサロン・ほっとスペースさつき「以下さつき」は令和2年2月末をもって、借用していたオ

ナーさんのご都合により今の鷹の街道沿いから下記の場所に移転することになりました。

今までのさつきは、開所して丸7年が経過し、開所以来開催日 716 回、訪問者は利用者の皆さんやスタッフの方等延べ約一万人こえる人々が訪れたこととなります。

これからの移転先は、新しいオーナーさんのご厚情により鷹の台駅近くのの一軒家を使わせていただくことになり、今までと同等の体制で運営できることと思います。利用者の皆さんどうぞよろしくお願いいたします。

○新しい「ほっとスペースさつき」の場所

小平市たかの台39-6(若尾様宅)・・・鷹の台駅より徒歩 1~2分

12月懇談会の報告



12月17日(火)白梅学園大学J棟において小平西地区地域ネットワーク第36回地域懇談会を開催しました。当日は草野代表のあいさつに続いて「災害支援ボランティア・コーディネーターとしての地域貢献」として女鹿義巳(メガ ヨシミ)氏にお話をいただいた。1995年の東日

本大震災を機に組織された、東京都消防庁の災害時支援ボランティア活動とは何か、女鹿さんの体験をもとにして様々な地域での活動の様子を報告してもらいました。自主性、公益性そして無償性の3原則を柱に、「命を守る活動」「自分事として備える」ことの重要性、被災地に学ぶ「地震への備え」と、支援に当たっては必要な「物資」「情報」は自分で手に入れることを強調しました。

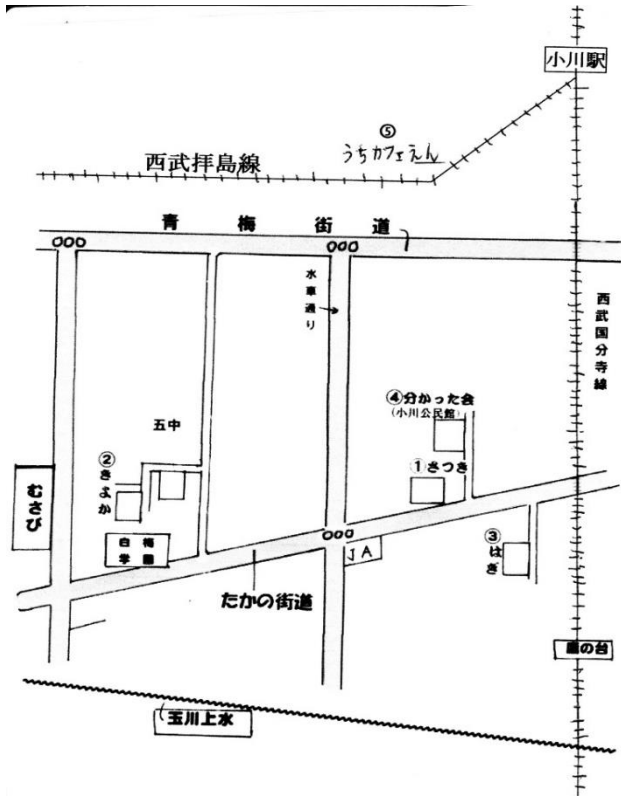
日頃の備えが大切で、普段やっていないことはできないので、しっかりとしたマニュアルを準備し、それに沿った防災訓練を積み重ねることが重要であると結びました。

全体会の最後に、10月6日に白梅学園大学で開催された「日本世代間交流学会第10回大会」について、無事に終了し、とてもいい内容になったことが報告されました。そして西ネットの協力について感謝の気持ちが伝えられました。(瀧口優)

皆さん、コミュニティ・サロン(下の①～⑤)と「中学生勉強会」(④)に足を運んでみませんか?

お待ちしております! (右の地図を参照)

- ① **ほっとスペースさつき**
毎週火曜と木曜 10:00~16:00 (4月2日から移転先)
問合わせ: 渡辺 穂積
TEL: 042-344-7412
- ② **ほっとスペースきよか**
毎週月曜 11:30~15:30
問合わせ: 石川 貞子
TEL: 090-7732-2089
- ③ **アットホームはぎ**
毎月 7, 17, 27 日: 14:00~17:00
問合わせ: 萩谷 洋子: 042-342-1738
- ④ **「分かった会」小中無料学習教室**
毎週木曜日 18:00~20:00 (小川公民館)
問合わせ: 奈良 勝行 (講師募集中!)
TEL: 090-4435-4306
- ⑤ **子育てサロン「うちかフェス」(小川西町)**
毎週月・水 13:00~15:30分
問合わせ: 伊藤絹代
TEL: 090-5441-6219



イベントの予定

- 05月01日(土) 白梅子育て広場あそぼうかい
&世代間交流 (13時30分~)
- 05月31日(日) 「まちで楽しむ」 武蔵野美術大学
13時~16時

西ネットの今後の予定
 大学世話人会: 04月14日(火) 18時~
 地域世話人会: 05月12日(火) 18時~
 大学世話人会: 05月19日(火) 18時~
 懇談会: 06月09日(火) 18時~
 大学世話人会: 06月23日(火) 18時~

西ネットの世話人

ブロック	地域世話人	大学世話人
1	西 克彦・丸山安三	瀧口 優・杉本豊和 福丸由佳・山路憲夫
2	足立隆子・芳井正彦・ 今野志保子	午頭潤子・土川洋子 吉村季織
3	石川貞子・大内智恵子・ 久保田進・穂積健児・ 杉浦博道・吉田徹	金田利子・草野篤子 西方規恵・牧野晶哲
4	桜田 誠・萩谷洋子 福井正徳・細江卓朗 渡辺穂積	井原哲人・森山千賀子
全体		奈良勝行・長谷川俊雄

お願い: この広報紙『小平西のきずな』の編集方針は、「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加団体(者)の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当(奈良まで)お申し出下さい。

投稿募集: このニューズレターは皆さんと一緒に作るものです。活動の報告やイベントの企画などについての原稿をお寄せください(奈良勝行)。
メール: ever.onward.nara@xd5.sonet.ne.jp

編集後記: 「小平西のきずな」も今回で33号を迎えます。3ヶ月に1号の発行なので、8年この小平西地域の動きを伝えてきました。もちろんここに載せられなかったものも沢山あるので、それらを含めてもっと地域の顔が繋がっていくことを期待しています(瀧口)。